

インフォメーションディスプレイ Vol.13



近森病院
副院長
外科部長

北村 龍彦 様

医療法人 近森会 様

JR高知駅近くで、「近森病院」、「近森病院第二分院」、「近森リハビリテーション病院」、「在宅総合ケアセンター近森」、「高知メンタルリハビリテーションセンター」を運営されている医療法人近森会様。急性期医療からリハビリテーション、さらには在宅医療までをサポートしながら、適切な医療サービスと快適な院内環境の向上に努められています。



所在地:高知県高知市

医療現場での画像参照用ディスプレイとして、『PN-455』を導入。 高精細性が何よりの決め手になりました。

PN-455
41台導入

(カンファレンスルーム
診察室、オベ室など)

医療法人近森会様では今年10月、グループ内すべてに電子カルテシステムを構築されました。これまで紙カルテに記録してきた診断や検査の結果、処方、看護記録、またフィルム上にあった画像といった一連の情報を患者さんごとにデータ化。さらに、グループ内のどこからでもカルテを参照できるよう、五つの医療機関をオンラインで結び、700台を越える端末を設置されています。これにより、医療スタッフ間における情報の共有化、カルテの明確性、診療の質的向上など、医療システムのさらなる充実に成功されています。

今回のシステムに、画像の参照用ディスプレイとして導入されているのが『PN-455』。「この大型ディスプレイが、患者さんやご家族のみなさんへの治療説明、また各医療スタッフが集まったカンファレンス時に有効活用されています。」と、近森病院で外科部長を務められる北村副院長はおっしゃいます。



オベ室では手術用の照明灯が多様な角度に設定されるから、光の反射による映り込みが少ない『PN-455』のメリットが大きく評価される。

導入時の評価ポイント

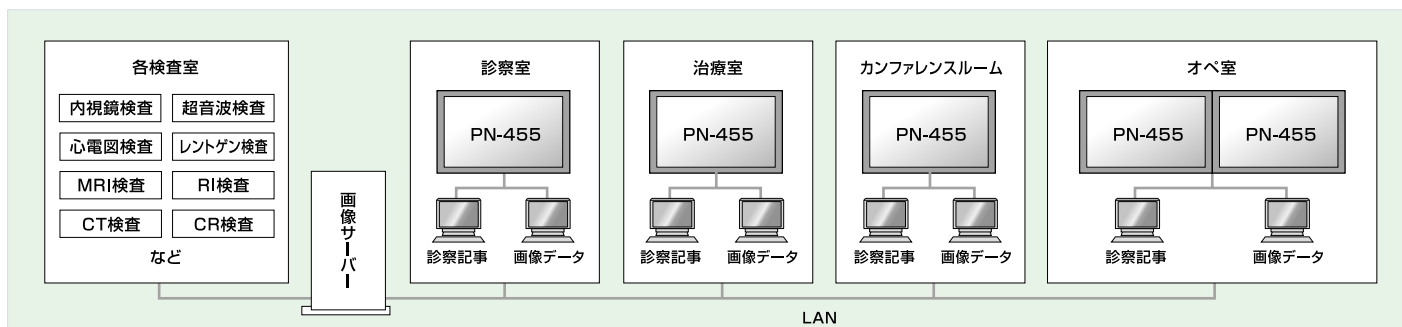
■ 緻密な情報もはっきりと表示できる、
1,920×1,080画素の高解像度

■ 複数の検査画像を同時に表示できる、
大画面を活かした表示力

■ 照明の気になる明るい場所でも、
映り込みの少ない見やすい画面

■ 狭いスペースにも設置しやすい、
軽量・薄型のデザイン

■ システム概略図



導入の経緯

シャカステンに代わる『PN-455』。
フィルムレス化に一役です。

「電子カルテシステムでは、フィルムレス化も必然です。そうすると、デジタル撮影されたレントゲン写真や各種検査画像を映すための、ディスプレイが必要になります。プラズマタイプも含め各種ディスプレイを検証した結果、いちばん高精細だった『PN-455』を画像参照用ディスプレイとして導入することになりました。大きさも魅力の一つです。」とは、北村副院長。診断用にまでは使わないもの

の、やはりコンテンツが医療分野だけに、緻密な情報も正確に映し出せることが画像参照用ディスプレイとしての最大の条件だったそうです。

「大きなシャカステン(すりガラスを介した透過光でレントゲン写真などを見る機材)のあった場所に、45型のディスプレイがすっきりと収まりました。ディスプレイの奥行きも薄く、設置に問題はありませんでした。」



デスク上に置かれた左のモニターには診察記事が、右のモニターには検査画像が表示されている。必要に応じてデータを選択し、シャカステンの横に並んだ『PN-455』に大きく表示。診察室にて。

導入後の感想

ワイド画面のメリットを活かして、過去のデータを並べて表示。
患者さんの病態の経緯がよくわかります。

北村副院長は高精細性をいちばんに、電子カルテシステムにおける『PN-455』のメリットを次のように語られました。「大画面だから、過去の画像データを幾つも並べることが出来ます。そうすることで、患者さんの病態がよりよく分かるようになりました。」また、画像の一部を拡大表示したり、画像の濃淡を変えられることも、デジタル画像のメリットだとか。「患者さんのご家族に治療方針をご説明するときも、大きな画面だと、ご理解いただきやす

すいようです」。診察室で、カンファレンスルームで、オペ室で、多彩な情報を正確に映し出す『PN-455』の評価は高まるばかりのようです。



医療法人 近森会
管理部 診療支援部長
寺田 文彦 様

「サーバー室への出入りにはバイオメトリクス認証を採用するなど、セキュリティ対策も二重、三重に施しています。」



オペ室に2台並んだ『PN-455』。切除や形成箇所、検査データを表示させながら、各部門の医療スタッフが手術に臨む。

今後の展開予定

医療現場の革新に、
さらに大きなディスプレイを。

「1年間のフィルム代を考えると、今回の設備投資は、近森会にとって大きなメリット。今後も患者さんたちのために、時代に即した新システムの構築に努めます。」とは、医療法人近森会管理部の寺田診療支援部長。

また北村副院長は、「治療は、多職種の医療スタッフでディスカッションしながら決定し、その経緯を全員で確認しながら進めることが大切だと考えています。これに伴い、今後の医療体制を考えると、今以上に多彩な情報を1

画面で見られるように、そして大勢の医療スタッフが集まる広い空間のどこからでも表示が鮮明に見られるように、もっと大きな画面のディスプレイを導入したいと考えています。」と、おっしゃいました。

●お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03) 3260-8217 / (0743) 55-6373

2006年12月発行